

授業科目	生命倫理				実務家教員担当科目	-					
単位	2.	履修	選択	開講年次	2	開講時期	後期				
担当教員	通山 久仁子										
授業概要	<p>人を支援する専門職をめざすみなさんにとって、生老病死という「いのち」をめぐり、現代社会においてどのような課題が生じているのかを知り、これらの課題に直面した際の考え方や態度を養っておくことは重要です。</p> <p>本講義では特に人間の生死、「いのち」の始まりと終わりにおいて生じる諸問題をとりあげ、それを「だれか」という三人称ではなく、「わたし」という一人称の問題として考えることに重点を置きます。そして「いのち」をめぐる様々な言説や立場を理解したうえで、みなさん自身が「生きる」ということについて問いなおしていくことをめざします。</p>										
授業形態	講義	授業方法	ディスカッション、グループワーク								
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命倫理とはなにかについて理解できる。 2 「いのち」の始まりをめぐる諸問題に対する様々な視点を理解できる。 3 「いのち」の終わりをめぐる諸問題に対する様々な視点を理解できる。 										
理想的レベル	<ol style="list-style-type: none"> 1 生命倫理とはなにかについて理解し、説明できる。 2 「いのち」の始まりをめぐる諸問題に対する様々な視点を理解したうえで、自分なりの考えをもち、議論することができる。 3 「いのち」の終わりをめぐる諸問題に対する様々な視点を理解したうえで、自分なりの考えをもち、議論することができる。 										
評価方法・評価割合											
評価方法	評価割合（数値）				備考						
試験											
小テスト											
レポート	30%										
発表（口頭、プレゼンテーション）	20%										
レポート外の提出物											
その他	50%										
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	○	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	-	ナンバリング	WE31518J
学習課題（予習・復習）										1回の学習目安（時間）	
各回のテーマに関する調べ学習										4	
授業計画											
第1回	<p>オリエンテーション</p> <p>講義のねらいおよび講義の進め方、受講のルールについて説明する。生命倫理とは何かについて解説する。</p>										

第2回	生命倫理の歴史 アメリカにおけるバイオエシックスの展開と、日本における生命倫理の展開について解説する。
第3回	「いのち」の始まりはだれが決めるのか 1 人工妊娠中絶をめぐる母親と胎児の立場の対立について解説する。
第4回	「いのち」の始まりはだれが決めるのか 2 人工妊娠中絶をめぐる母親と胎児の立場の対立について考え、人の「いのち」はいつ始まるのかについて考える。
第5回	生殖補助技術は人を幸せにするのか 1 妊娠を助ける生殖補助技術をめぐる状況について解説する。
第6回	生殖補助技術は人を幸せにするのか 2 妊娠を助ける生殖補助技術をめぐる状況について考え、代理出産などの親子関係への影響について考える。
第7回	「いのち」の質はだれが決めるのか 1 出生前診断やデザイナーズ・ベビーをめぐる状況について解説する。
第8回	「いのち」の質はだれが決めるのか 2 出生前診断やデザイナーズ・ベビーをめぐる状況について考え、優生思想や社会における障害観について考える。
第9回	子どもの「いのち」はだれが決めるのか 1 侵襲性の高い医療技術の利用や子どもの臓器提供をめぐる状況について解説する。
第10回	子どもの「いのち」はだれが決めるのか 2 侵襲性の高い医療技術の利用や子どもの臓器提供をめぐる状況について考え、親の責任と子どもの権利の葛藤について考える。
第11回	「脳死」は人の死か 1 日本の脳死・臓器移植議論と臓器移植法をめぐる状況について解説する。
第12回	「脳死」は人の死か 2 日本の脳死・臓器移植議論と臓器移植法をめぐる状況について考え、「脳死」=人の死なのかについて考える。
第13回	「いのち」の終わりはだれが決めるのか 1 安楽死と尊厳死をめぐる状況について解説する。
第14回	「いのち」の終わりはだれが決めるのか 2 安楽死と尊厳死をめぐる状況について考え、生命の質(QOL)とは何かについて考える。
第15回	「いのち」の期限を告知されたら 死を考えることを通して、生きがいや、自身にとってのよりよい生について考える。
テキスト	レジュメを配布し、参考図書等は適宜紹介します。
参考図書・教材 /データベース	香川知晶(2009)『命は誰のものか』ディスカヴァー携書 小林亜津子(2011)『はじめて学ぶ生命倫理―「いのち」はだれが決めるのか』ちくまプリマー新書 庄司進一編著(2003)『生・老・病・死を考える15章 実践・臨床人間学入門』朝日選書 玉井真理子・大谷いづみ編著(2011)『はじめて出会う生命倫理』有斐閣

雑誌等の紹介	教材として、必要に応じて視聴覚教材を用います。
課題に対するフィードバックの方法	各回の感想に記入された質問や感想の内容については、講義内で解説し、フィードバックを行います。
学生へのメッセージ・コメント	生や死といった「いのち」をめぐる諸問題への関心を広くもち、講義で提示されるテーマについて、自分自身で考えを深め、意見を積極的に述べる姿勢を持って参加してください。 生命倫理に関する報道に目を向け、最新の倫理的課題について関心をもつようにしてください。 また生命倫理に関するドキュメンタリーや映画などにも多く触れてみてください。